

第47回 経営協議会 議事要録

日 時 平成26年1月23日（木）13時30分～14時45分

場 所 事務局第二会議室

出席者 宮田亮平 学長、畑中裕良 理事、横里幸一 理事
保科豊巳 美術学部長、植田克己 音楽学部長
岡本美津子 大学院映像研究科長

石田義雄 委員、高階秀爾 委員、遠山敦子 委員
中村胤夫 委員、福井俊彦 委員

陪 席 監事：中島尚正 監事

渡邊健二 理事、北郷 悟 理事

越川倫明 副学長、澤 和樹 副学長

宮廻正明 社会連携センター長 [学長特命（社会連携担当）]

多田羅迪夫 演奏芸術センター長 [学長特命（グローバル化推進担当）]

大角欣矢 附属図書館長

欠席者 滝 久雄 委員

金井 満 監事

三田村有純 学長特命（グローバル化推進担当）、桐山孝司 学長特別補佐

関 出 大学美術館長

議題

特になし

報告及び連絡事項

1. 平成26年度国立大学法人運営費交付金の概要について
標記のことについて、畑中理事から資料に基づき説明があった。
2. 上野「文化の杜」新構想推進会議等について
標記のことについて、議長及び北郷理事から映像資料等に基づき説明があった。
3. 平成26年度経営協議会の開催日程について
標記のことについて、畑中理事から資料に基づき報告があった。

4. その他（昨今の本学をめぐる諸情勢について）

特になし

その他：（ご助言、ご提言等）

学外委員からの主な意見

- 運営費交付金は、消費税分を勘案した数字となっているのか。
 - ・ 消費税分はカウントされておらず、その分は各大学の自助努力となる。
- 「学長のリーダーシップの発揮」について、藝大はすでにやっていると考えているが、どうか。
 - ・ 本学は全員参加の大学にしたいと考えている。ボトムアップであれ、トップダウンであれ、全員のモチベーションが上がるリーダーシップ構想でなければならない。ただし、このままの方式ではない形は考えている。
- これまで運営費交付金はずっと減り続けてきたが、使途が決まっているものとはいえ、ここで初めて増額となった。藝大は唯一文化を担う直接的な責任をもつ役割があるので、学生たちのためにも増額分については手を挙げてもらいたい。
 - ・ 本学は自己アピールが苦手な者の集まりであり、それが美学でもあったが、時代の変化には対応していかなければならない。
- 国立大学の機能強化の予算枠に東京藝術大学は入っているか。
 - ・ 申請方式で、藝大は手を挙げなかったため入っていない。
 - ・ こういうところが本学のマイナス点である。作家として表現者としての意識は強いが、こういうものに対するアピールの仕方が弱い。
- ガバナンスというと難しく考えがちだが、大学として、教員や学生をどう引っ張っていくか、どういうことを行っていくのか、そこが見えることは大事なことである。その中で、現実はこのようにやっているし、実績があるから良いんだということと、それを発言しないからといって何をしているんだとの話があるということは、今日的であると感じるが、もう少し前に見える形で出していても良いと考える。
- 藝大は平均点という概念がほとんどないと聞いたが、一般社会では全体的な平均点、バロメーターがあるわけで、それとどう結びつけていくか、難しいことではあるが、実績があるのだから、そこを分からせるための努力はしてほしい。
- 国立大学の機能強化やイノベーションなどについても、理工系に目がいつているようだが、文系やヒューマニティーの問題、特に新しいもの造り出す力には、藝大が大事であるということを発言していただき、目の前の新しいものだけでなく、将来を見据えた若い人の教育が大切で、これも藝大の重要な役割であるという点を強調してもらいたい。
 - ・ 芸術と科学の融合を実践する科学技術系予算のCOI-T（センター・オブ・イノベーショントライアル）について報告があった。
- 大学をアピールする方法のひとつとして、例えば「仏頭展」の企画は、日本国民に自信を持たせるものであり、国民に対するPRと同時に、芸術の力、文化の力は、学生や教員に対しても影響のあるものだったと考える。文化・芸術の現象は今日本の中に抱懐としてあるが、その中で藝大の位置をどのように考えるか。これまでどおりのことを粛々と行っていくのか。あるいは、それを行うと同時に、世界で起きている文化・芸術の現

- 象といったものを学生と教員が一緒になって考えていく雰囲気作りするのか。といったようなことを行っていけば、自ずと藝大の存在意義が分かっていくと考える。
- 「仏頭展」には、多くの観客が来ていたようだが、藝大の学生も観ているのか。
 - ・ 興福寺では、360度から拝観することができないこともあり、美術の学生の多くが大学美術館で観ている。
 - 「漱石展」から、文学と芸術を融合するなど、展示の方法が観やすく、分かりやすく変わったように思うが、一般の人にあまり知られていない。もっと知らしめる努力をした方が良いと思う。
 - 上野「文化の杜」新構想については、以前から地下通路や共通パスの話があったが、単に各施設の垣根を取った程度のものでなく、もっと抜本的に「上野の杜」が起爆剤となるような、過去の議論も参照し、新機能を備えた構想にしてもらいたい。今見る限りでは「連携」等の言葉だけが走っている。実際に動き出して物理的に地下で繋げるなどの話も出てくるであろうが、抜本的に変える最後のチャンスになると考える。
 - ・ 地下通路については構想の中にあるが、様々な意見があるのでそれを調整をして、夢を実現していけたらと考える。
 - 地下通路については、ループルの先例がある。できてからアクセス等の問題から急速に集客数が増えた。是非実現願いたい。
 - ・ 上野駅の信号あたりがポイントと考える。実現に向けて協力をお願いしたい。
 - 東博からの動線と駅からの動線にも問題があるが、様々なことを含めた上野「文化の杜」構想を実現するため、関係する方々を説得願いたい。
 - 以前上野駅についていわれたとき、公園口の一部に大蔵省の土地が入って複雑であったため、触れることができなかったが、現在は解決しているので、その方向に行けば、可能と考える。
 - 東京駅はこの10年で変わったが、丸の内については三菱地所がリーダーシップをとり、東京都も国も全て一体となり、全体の付加価値をいかにするかということと、東京の顔作りという観点から協力していった。東京駅の場合は、空中権の売買を認めることにより、結果として、それぞれが付加価値を得られる形であってうまくいった。八重洲についても、三井不動産が動き出し、こちらも確実に進むと考える。これらは全て、根底には商業価値の問題があるが、上野はその点をどのように説明していくか。全体構想も大事だが、今やるべきことは何かという具体的な各論と進め方の部分を、関係するところでまとめることが優先と感じる。当方では本件に関し、担当等を定め、いつでも議論に応じられる体制となっている。
 - 建物等の構想を待たないで、連携の初めとして、上野のミュージアムの入場券を共通化にしてはどうか。
 - 邦楽の演奏会の際、パンフレットに寄附のお願いのメモが入っていたが、他機関の例をみても、振込用紙を入れるなど、もっと遠慮なくやってもいいのではないか。
 - 藝大と三越で、今回で3回目になる若手芸術家の展覧会を8月13日から8月19日まで、6階の美術画廊で行う。今回は何か付加価値をつけたいと考え担当に宿題を出している。
 - 上野はミュージアムはあるが、ホールは文化会館と奏楽堂だけである。一体化して、文化会館と同じようなレベルの発信をし、集客してはどうか。
 - ・ 以前に交流等の話はあったが、現在はメサイアだけである。
 - ・ 文化会館側にも連携の希望があり、現在、積極的に進めているところである。
 - ・ 旧音楽学校の奏楽堂とは、いろいろタイアップしてきたが、耐震工事のため4年くらいは使えない状態である。復活した際は、おもしろいことができると考える。
 - 上野「文化の杜」構想においても、藝大のイニシアチブが大事で、どこまでが藝大の

敷地であるかは本質的な問題ではなく、使えるときは藝大がうまく全体を使って文化を発信をしていく。藝大の美術館だけに籠もっている必要はない。そのときの内容によっては、どこの美術館を使っても藝大はイベントを行うことができる。上野「文化の杜」構想も、中身は藝大が一步先に踏み出して進め、上野の杜のスペース全体がいつの間にか藝大にならって動いているようになってもらいたい。東大の例をとってみても建物をやたらに建てることには反対である。

- 上野公園のスペースを見ると、なぜ彫刻の森としないのか疑問がある。
 - ・ 現在は、所々に置いてある。
- 駅からの入り口が汚く感じる。直した方が良い。外国の人も迷っているようである。
 - ・ 何か一つでも良いから進めていきたいと考える。
- 国際的問題、特にアジア関係で中国や韓国の学生が日本に来ずらいことはないか。
 - ・ 2012年に藝大が行った国際的サミットでは、中国のキャンセルがあったが、外国人留学生については、120名から130名程度の間で動いていて、日中韓関係による影響は特にはないようである。
- 全体的に外国人対策は大切であるが、政治的問題が発生しても、文化交流の場は行っていくことを期待する。
 - ・ 上野公園プランの中にもポータルサイトの話があり、様々な情報を提供するサイトを作成すると同時に多言語化を考えている。
 - ・ これまで留学生というと大学院生が多かったが、本年度学部にも交換留学生が入ってきた。本学の学部生にとっても良い刺激になっている。